

インド政策金利引上げ(2014年1月28日発表)

概要と今後の見通し

ご参考資料 2014年1月29日

インド準備銀行(RBI、中央銀行)は、1月28日の金融政策決定会合において、政策金利の引上げを発表しました。依然としてインフレ率が高い水準にあることが、2会合ぶりの利上げにつながりました。インドの利上げの概要と今後の見通しについて、ご説明します。

政策金利引上げの概要: 引続きインフレ抑制策を強化

1月28日、RBIは政策金利であるレポ金利を7.75%から8.0%に、リバース・レポ金利を6.75%から7.0%に引上げることを決定しました。預金準備率は4.0%のまま据え置かれました。

RBIは今回の利上げの背景として、消費者物価指数(CPI)の水準が依然として高いことを挙げています。野菜や果物の価格に落ち着きが見られたことで前月に比べると鈍化したものの、12月のCPI上昇率は前年同月比+9.87%と高く、食料品・エネルギーを除くコア・インフレ率も高い水準にあります。特に、サービス関連価格の上昇と賃金上昇圧力などが、利上げの要因として挙げられました。

これまでインドでは、物価動向を示す指標として卸売物価指数(WPI)を用いてきましたが、RBIのラジャン総裁が設立した諮問委員会において、今後はCPIを主な判断材料として用いることが、前週の21日に提言されました。また、同委員会が、CPI上昇率を現状の前年同月比約+10%から、2015年1月には同+8%以下に、2016年1月には同+6%以下まで抑えることを目標としている旨が示されました。

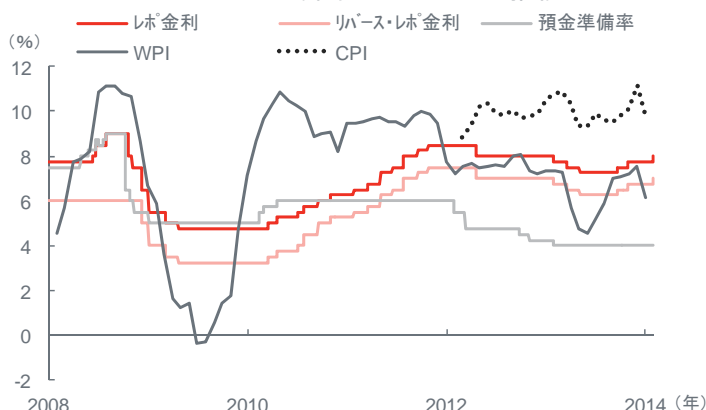
今後の見通し: 足元減速傾向にあるインド経済、 企業収益の改善に伴い来四半期以降に回復期待

RBIのラジャン総裁は声明の中で、インドの景気が減速傾向にあることは認識しつつも、引続き、インフレリスクへの対応が重要であることを表明しました。また、国内総生産(GDP)成長率の見通しも改めて示しました。産業活動の鈍化や財政の引締めが経済の停滞につながり、従来5%としていた2013年4月~2014年3月のGDP成長率については5%をやや下回る水準とし、2014年4月~2015年3月については5~6%としました。

当社グループでは従前より、高水準で推移している政策金利について、インフレの落ち着きが見られれば引下げ方向に向かうだろうとの見方を持つ一方で、外部環境の不透明感がくすぶっていることもあり、短期的には追加利上げの可能性があると想定していました。

今後の見通しとして、インド経済は足元減速傾向にあるものの、企業収益の改善に伴い、来四半期以降に回復していくものと考えています。また、5月に予定されている総選挙については、インドの金融市場と経済の行方を左右するイベントとして注目しています。

インドの政策金利、預金準備率、WPI・CPI上昇率(前年同月比)の推移



インドルピーとSENSEX指数の推移



※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第379号/加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会